

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(1/7)

電磁界情報データベース運用・管理

(データの分類)→健康影響に関わるデータを優先的に収集

- 論文文書: 直流、低周波、高周波、ミリ波・テラヘルツ波、リスク科学、その他
- 一般文書: 学術書籍、規制・ガイドライン、会報・パンフレット、官公庁、その他

(データベース全登録件数, 2009.11末現在)

周波数別	直流 (DC)	低周波 (100kHz以下)	高周波 (100kHz以上)	ミリ波 ・テラヘルツ波	その他	合計
登録件数	62	161	221	7	77	528

(データベース公開の考え方)

- データベースには、論文文書、一般文書のタイトル、著者、キーワード、発行年(月日)、文書の概要などを、フリーワード検索可能なデータベースとして保管し、電磁界情報センターホームページ上で公開。ただし、文書自体は著作権法上、非公開
- 電磁界情報センター内部では、問い合わせや調査時に迅速に検索可能な体制を図るため、内部用データベース(非公開)上にPDFファイルで文書を保管
- 検索の結果、文書自体の公開を希望する場合は、センターに来所の上、紙媒体(映像を含む)で保管されている文書を閲覧することができる体制を整備

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(3/7)

情報調査実績の概要(2/3)

情報源	調査テーマ	調査方法 《直営調査》	調査結果概要	公開方法
問い合わせ	太陽光発電設備からの磁界	・インターネット ・磁界測定(試験設備)	・太陽光発電設備は、太陽光パネル(直流)、パワーコンディショナー(直流を交流に変換)、分電盤(交流)から構成。 ・磁界測定を実施した結果、パワーコンディショナー近傍の磁界レベルが最大であったが、ICNIRPのガイドライン値以下であった。 ・パワーコンディショナーの主な周波数成分は、低周波(50~100Hz)であった。	・個別回答 ・ホームページ(予定)

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(2/7)

情報調査実績の概要(1/3)

情報源	調査テーマ	調査方法 《直営調査》	調査結果概要	公開方法
新聞報道	多機能清涼スーツ(電磁波抑制機能)	・インターネット ・インタビュー	・2006年9月19日のプレスリリースにて情報公開。 ・スーツの胸増し芯部分に電磁波遮蔽機能を有する「カーボン・シールド」(綿の布を炭化したもの)を使用。 ・マイクロ波を対象に胸部分に受ける電磁波を抑制。 ・100%電磁波を遮断することはない。	・ホームページ(予定)
電磁界と健康に関するワークショップ(海外動向)	欧州連合(EU)の電磁界政策	・現地調査 ・インタビュー	・利害関係者による議論の結果を今後の欧州連合(EU)の電磁界政策に反映する。	・ホームページ ・ニュースレター

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(4/7)

情報調査実績の概要(3/3)

情報源	調査テーマ	調査方法 《委託調査》	調査内容	公開方法
バイオイニシアチブ報告(海外動向)	バイオイニシアチブ報告の各国による評価	・インターネット	・バイオイニシアチブに対する国レベルの評価内容	・ニュースレター
	欧州連合(EU)での政治インパクト	・インターネット ・インタビュー ・現地調査	・2007年8月31日に公表された報告書の概要。 ・2007年9月17日に欧州環境庁(EEA)が行った報道発表。 ・欧州議会議員の質問内容。 ・上述に対する欧州委員会の回答内容。	・ホームページ ・ニュースレター

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(5/7)

▶電磁界に係る新聞報道への解説コメント(1/3)

情報源	記事内容	対応方法	対応内容	公開方法
新聞報道	2009年3月7日 地方紙 「危険な携帯電話の電磁波」	・新聞社に対してインタビュー ・記事元に対してインタビュー ・取材元に対してインタビュー	・掲載記事に「WHOの国際電磁波プロジェクトでは、携帯電話の電磁波がDNAを破壊することを発表している。」「WHOは、携帯電話の電磁波を妊婦や小児に浴びせないようにと発表している。」の記載内容について、具体的な文献名を問合せした。 ・新聞社は、記事の詳細は不明との回答。新聞社に記事元の通信社を紹介され、通信社に問合せしたところ、取材元の電磁波除去商品の販売会社を紹介された。 ・取材元に記載内容を問合せしたところ、「私はそう考えている」との回答。	・個別対応とし公開予定なし

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(7/7)

▶電磁界に係る新聞報道への解説コメント(3/3)

情報源	記事内容	対応方法	対応内容	公開方法
新聞報道	2009年6月23日 朝日新聞社 「身近な電磁波、身体に大丈夫？」	・補足説明を作成	・掲載記事に「国際的な疫学調査で高圧送電線の電磁波と統計学的には関連があるとされたが、動物実験では電磁波を浴びせ続けても発症した例はないという。」の記載内容があったが、「WHOファクトシートNo322」の但し書きとして、「疫学的証拠は、潜在的な選択バイアス等の手法上の問題があるために弱められています」を補足説明としてコメントした。	・ホームページ

平成21年度業務進捗状況補足(情報調査業務)(6/7)

▶電磁界に係る新聞報道への解説コメント(2/3)

情報源	記事内容	対応方法	対応内容	公開方法
新聞報道	2009年4月21日 毎日新聞社 「携帯の電磁波 子どもへの影響は？」	・新聞社に対して文書を送付	・掲載記事に「送電線の周波数は50～60Hzと超低周波。ただ、浴び続けると白血病の発症頻度が上がることがわかった。評価書は、0.3～0.4マイクロテスラ以上だと、小児白血病が増えるという疫学調査結果を認めた」の記載内容があったが、表現に誤解を招く可能性があることを指摘。	・ホームページ

平成21年度業務進捗状況補足(情報提供業務)(1/5)

▶電磁界フォーラム(総合討論会)の企画

電力設備や家電製品などから発生する50/60Hz(商用周波数)の電磁波(電磁界)に関して、工学から医学、生物学、そして国際動向やリスクコミュニケーションまで体系的な理解を深めてもらう、様々なテーマを設定した、11回シリーズの「電磁界フォーラム」(総合討論会)を企画。

【開催時期】 平成21年10月から平成24年3月の間、約3か月に1回程度の頻度で実施予定

【開催地】 1テーマについて、東京・大阪の2か所で実施

平成21年度業務進捗状況補足(情報提供業務)(2/5)

▶ 電磁界フォーラム(総合討論会)のテーマ(仮)

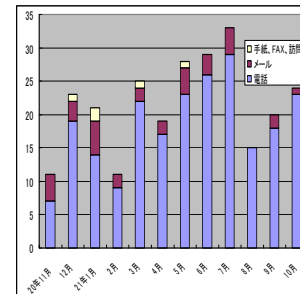
第1回 (H21/10)	電磁界問題の過去・現在を知り、未来を考えよう	第7回	「Precautionary Principle」の解釈
第2回 (H21/12)	電磁界の健康リスク評価発がん性『2B』の意味を考えよう	第8回	電磁過敏症の実態
第3回	電磁界の健康影響評価方法	第9回	電磁界の防護基準の考え方
第4回	電磁界が発生するしくみと身の周りの電磁界	第10回	各国の電磁界政策
第5回	電磁界ばく露と小児白血病の可能性	第11回	電磁界とリスク・コミュニケーション
第6回	電磁界の健康影響 ～生物学的研究・理論研究の視点から～		

平成21年度業務進捗状況補足(情報提供業務)(4/5)

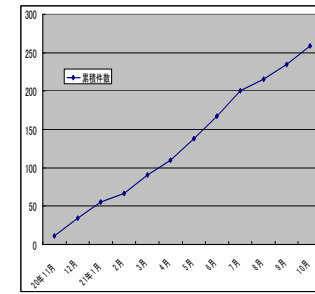
▶ 問い合わせ対応

✓ 2009.11.4業務開始～2009.10.31現在の問い合わせ件数
メール:32件、電話:222件、手紙3件、面会2件

問い合わせ推移



問い合わせ累計



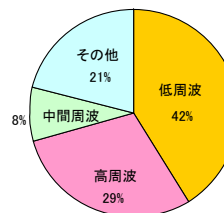
平成21年度業務進捗状況補足(情報提供業務)(3/5)

▶ フォーラム・意見交換会等の開催実績

名称	開催日	概要	参加者からの主な意見など
マイク・レバコリ博士の特別講演(東京) 91名	2009.6.4	・最新の電磁界の健康リスク、WHOのリスク評価プロセス紹介、効果的なコミュニケーション手法について討論	・WHOの環境保健クライテリアとファクトシートはどちらを重視すべきなのか
意見交換会(仙台・福岡・尼崎) 合計72名	2009.7.9 2009.7.11 2009.9.17	・第2回シンポジウム「WHOからのメッセージ」の総括 ・センター活動に関する意見交換	・電磁波を正しく理解するための 情報提供をして欲しい ・比較的少人数での開催で参加者のコミュニケーションが図れた
意見交換会(札幌・広島) 合計100名	2009.9.28 2009.11.12	・電磁波の健康影響について、電磁波の性質やWHOの見解について説明、質疑応答	・家電製品からの磁界の発生状況と健康影響について教えて欲しい ・電磁過敏症のことを詳しく教えて欲しい
第1回電磁界フォーラム(東京・大阪) 合計149名	2009.10.20 2009.10.28	・電磁界問題の経緯、社会動向や研究結果について、専門家、市民、各々の立場から紹介、課題などについて討論	・事業者には適切な説明責任を果たして欲しい ・行政、事業者は市民一人ひとりの声を聞いて欲しい

平成21年度業務進捗状況補足(情報提供業務)(5/5)

周波数別



問い合わせ内容別

